

# 令和元年度 自己評価・学校関係者評価報告書

こまどり幼稚園・保育園

## I. 園の教育目標

教育基本法及び学校教育法にしたがい、学校教育を行い、よき伝統の上に「未来に生きる夢を持った心身ともに調和の取れた子ども」を育成する。また、子ども達が将来自分の持てる能力を充分発揮して社会に貢献できる人間の素地の育成を目指し、次の四つを掲げる。

- (1) 人間として大切な豊かな心の素地を養う。
- (2) 健康かつ安全で人間らしい生活を送るための基本的な生活習慣・態度を育て、健全な心身の基礎を養う。
- (3) 科学的夢を育て、自然の事物現象に旺盛に反応する感性を育てる。
- (4) 広い心を持ち、国際的に開かれた心情の素地を育てる。

## II. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

評価項目に沿って自己点検・自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養う。幼保連携型認定こども園教育保育要領の改訂に合わせ、指導計画の見直しを行い、教育保育内容の改善に主体的に取り組んでいくとともに、本園の特色である科学遊びを充実させていくことを重点項目とする。

## III. 評価項目の達成及び取り組み（要約）

	評価項目	評価	取り組み
1	子どもの実態を把握し具体的な手立てをし、子どものよさを認めて評価する。	A	<ul style="list-style-type: none"><li>・教師間の話し合いや日々の反省の記録を参考にし、子ども一人ひとりの幼児理解に努めた。</li><li>・クラスや学年を問わず職員間で子どもに関する情報交換を行い、一人ひとりの遊ぶ姿を捉えていくことで、あそびの経験を重ねることができた。</li></ul>
2	規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"><li>・園生活の中で、基本的な生活習慣を繰り返し指導し自立を促した。また、家庭と協力しながら進めていけるように保護者との連携を密にした。</li><li>・生活習慣の指導結果として、秋田県良い歯のコンクールで幼稚園・保育園部門で一園のみ優秀園として表彰された。</li></ul>
3	小学校と連携し、発達の連続性を踏まえてスムーズな接続を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"><li>・幼稚園と桜小学校の教師が相互の研究会に参加し、参観と協議を行い、互いの教育内容や指導方法の違いや共通点について理解が深まった。</li><li>・就学時健診前や年度末には進学する子どもの引き継ぎを行いスムーズな接続に努めた。</li></ul>

S:非常に良く取り組んだ A:十分に取り組んだ B:取り組んだ C:やや劣る D:劣る

## IV. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

評価	理由
A	各自、評価項目に基づき自己評価に取り組むことができた。今後も、資質向上のため自らの教育保育を振り返り、それを活かし更に充実した保育実践ができるように努力する。

## V. 今後取り組むべき課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	教育課程・指導計画・子ども要録	3つの資質能力の発揮された姿を基本として、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をふまえ、各年齢の育ちに沿った経験ができるよう、ねらいと内容を記入する。
2	生活習慣の定着	手洗いうがいを繰り返し指導する。また、ハンカチの携帯と歯みがき習慣の定着について、引き続き指導する。
3	保護者対応	学年便りを通して、保育活動や内容、子どもの育ちや教師のねがい等について発信し、保護者との共通理解に努める。 写真の掲示を工夫し、教育保育の可視化をしていく。
4	危機管理 衛生管理	危険な場所や遊具の点検をし、ケガ防止に努める。 あそびを通して、安全についての動きを身につけ危険なことが分かるよう、各年齢に応じて安全指導を行う。 嘔吐物・下痢便の処理について、職員間で適切な対応を図り、衛生管理に努める。

## VI. 学校関係者評価委員会の評価

評 価	理 由
A	先生たちの意識が高く、子どものことを第一に考え、様々な観点から幼児期にふさわしい教育に熱心に取り組んでいることを評価したい。引き続き、保護者が安心して預けることができるよう、きめ細やかな教育保育を期待する。